

## 高等部 手芸Bグループ 作業学習指導案

### 1. 単元 『バザーに向けてお客さんに喜んでもらう製品を作ろう』

#### 2. 指導についての考え方

##### ○生徒の実態

本グループは、1年生〇名（男〇名，女〇名），2年生男〇名，3年生〇名（男〇名，女〇名）の計〇名から構成されている。作業の模範を示すことで自分で作業を見通しを持ち取り組める生徒、自分の行う作業工程の内容や流れにある程度見通しを持ち、支援を受けることで作業に取り組める生徒がいる。また作業学習の場によろやく慣れ、本人ができる活動を教師と一緒に探りながら取り組み「自分がすべきこと」が少しずつ理解できつつある生徒など、それぞれの生徒の作業に関わる実態、手芸に関する技能や興味関心の度合いは様々である。

##### ○単元設定の理由

高等部での作業学習のねらいは、間近に迫った卒業後に社会の一員として「働く生活を実現する社会参加・自立を目標としたものである。また、「働くこと」の意義を理解することが難しい生徒にとっては、卒業後の作業所等での生活にスムーズに移行したり、自分にできることを生かして楽しく取り組める活動を見つけたり、生活する力を身につけることにある。

また本単元の作業内容としては、布・糸・ビーズ・紙などの様々な素材を使って、生徒の個々の実態・課題に合わせて多くの作業種目を設定し、工程を全部または部分的に行い、作業の難易度にあわせて段階的に取り組むようにしている。本単元の中心となるスウェーデン刺繍・アクリル織・さをり織は、単純な工程の繰り返しが多く作業内容を理解しやすい。そのため技能の定着が早く、製品が早くでき上がり達成感を味わうことができる。また、作業工程には糸を結ぶ・つなぐ・すくう・切るなどの目と手の協応といった自立活動的内容や、でき上がった製品の色合いを見たり数を数えたりする教科的内容も含んでいる。

そこで本単元の設定理由として、1、座位作業で手指を使った細かな作業を通し、集中力・持続力の向上を図ることができる。2、作業工程において、個々の生徒が一部分または一連の作業工程を理解することで、見通しや目標を持って楽しく作業することができる。3、準備や後片づけが自分で行うことができるといったことがあげられる。

##### ○支援にあたっての考え方

###### 学習内容の工夫

・教師の支持や声かけは最小限にし、作業内容や材料の提示の仕方、補助具の工夫をして可能な限り一人で見通しを持って作業できるように支援していく。

###### 学習集団の工夫

・一人ひとりの実態に応じた目標を立て、生徒が自分の能力を十分に発揮し、それぞれにできる部分を一人で作業できるようにする。

###### 学習環境の工夫

・努力したことを十分に評価していくことにより、一人ひとりが製品を作り上げる喜びを感じながら意欲的に製品づくりができるように配慮する。

### 3. 単元目標

- ・製品作りを通して作り上げる喜びを味わい、さらに次の段階に進もうとする意欲を養う。
- ・手指を使った細かい作業により集中力・持続力の向上を図ることができる。
- ・挨拶・返事・方向等を言葉や身振りをういて行えることができる。
- ・完成度の高い製品を作るために、適切な指の使い方や、繰り返し行う作業を集中して行うことができる。
- ・バザーでの販売や宣伝などを通して地域の方々と触れ合うことで社会性を高めることができる。

#### 4. 生徒の実態と目標

	A女(○年)	B男(○年)	C男(○年)
個別の指導計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の人の動きや声に惑わされず、手元に集中して作業する。</li> <li>・時間いっぱい作業に取りくめる持続力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い製品づくりをめざし、作業時間は集中して取り組む。</li> <li>・必要に応じて、周りの人とコミュニケーションを取りながら作業を進めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業のやり方を覚え、一人で取り組む。</li> <li>・必要に応じて周りの人とコミュニケーションを取りながら作業を進めることができる。</li> </ul>

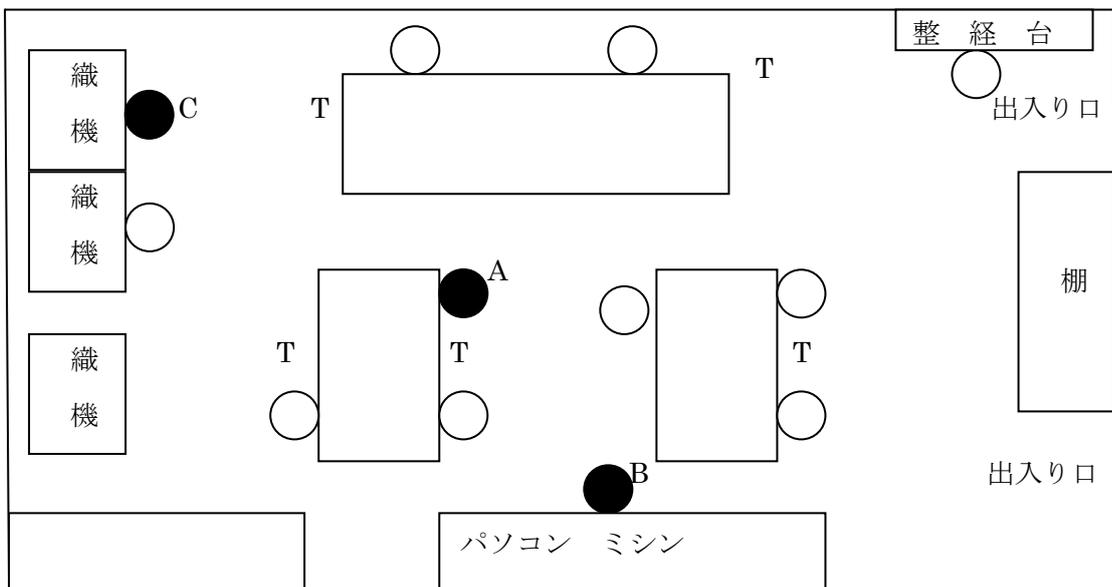
単元に関わる実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糸結び等の細かい作業や、はさみを使うことが得意ではないが、作業工程を覚えながら、何度も繰り返す事によって、自分でできる部分が増えている。</li> <li>・周りに気を取られ集中を欠くことが時々ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示を理解し、丁寧に作業しようとしている。</li> <li>・細かい作業も繰り返しやることで、できるようになってきている。</li> <li>・徐々によりよい製品作りに対する意欲がでてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各作業の流れをほぼ理解しており見通しをもって取り組むことができる。</li> <li>・必要な報告をせずに、作業を進めてしまうことがある。</li> </ul>
単元の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクリル織の工程で一人でできる部分を増やしながらか手元に集中して作業に取り組む。</li> <li>・時間いっぱい作業ができる持続力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの目標をはっきり持って作業に取り組む。</li> <li>・丁寧・確実に作業ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より完成度の高い製品作りを目指す。</li> <li>・一定量が終わったら報告できる。</li> </ul>
支援の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人でできる部分を増やしていくように、補助具を使うなどの物的支援を行う。</li> <li>・集中力を持続させるために、作業量がわかるように材料を提示する。</li> <li>・持続力をつけるために、定期的に織目のチェック依頼や作業報告をするようにして、意識を高め、達成感を感じながら取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の目標をもてるよう作業評価表を活用し、作業量や、確実さ等の評価を行う。</li> <li>・一定の幅でミシンをかけることができるようなガイドをつける。</li> <li>・一枚できあがるごとに報告し、一緒にチェックをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で出来る工程を増やすように補助具を準備する。</li> <li>・ボビンに糸を巻き過ぎない様にタイマーを行う。</li> <li>・タイマーを使い織りの長さ、色合いや作業の正確性などが報告できるように促す。</li> </ul>

## 5. 指導計画

月	10	11	12	1
作業内容	<b>アクリル織り</b> 小物入れ・ペットボトルカバー アクリルたわし	本    時	〇 〇 〇 バザ ー	
	<b>さをり織り</b> 袋もの・コースター テーブルセンター・タペストリー			
	<b>ビーズ製品</b> キーホルダー・アームバンド等			
	<b>ミシンがけ</b> ランチョンマット・コースター タペストリー・バッグ・巾着袋等			
	後 期 実 習			

## 6. 本時について

### ○場の設定



### ○ 準備

さをり織	作業カゴ, シャトル, ボビン5本, ハサミ, セロテープ, 布物差し タイマー, 整経台
アクリル織	木枠, 糸, ハサミ, 補助具, 針, セロテープ
ビーズモチーフ	ビーズ, 針, 滑り止めマット
ミシンがけ	ミシン, まち針, ハサミ, 糸, パソコン

## ○本時の展開

### (1)本時の目標

- ・ 今日する作業内容がわかる。
- ・ 時間一杯作業に取り組むことができる。

### (2)展開

	め ざ す 姿	評 価 の 観 点
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な毛糸の準備ができる。</li> <li>・ まわりに気を取られることなく集中してアクリル織に取り組める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業カゴの道具と材料を見て作業量がわかり、必要な毛糸の準備ができる。</li> <li>・ 手順通りにアクリル織を進めることができる。(プリンカップ3個分)</li> </ul>
	学 習 内 容 と 活 動	支 援 の 工 夫
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の作業内容を確認する。</li> <li>2. 糸の準備をする。</li> <li>3. 針に糸を通す。</li> <li>4. 通した糸をそろえて横糸に結びつけ、糸の継ぎたしをする。</li> <li>5. 針で縦糸を一つとばしにすくい、横糸を織り込んでいく。</li> <li>6. 1本分の毛糸を織り込むごとに、教師に確認報告をし、横糸の引き具合のチェックを受ける。</li> <li>7. はさみで糸を切り、針をはずす。 (用意した横糸がなくなるまで3～7の行程を繰り返す。)</li> <li>8. 終わりの会をする。 作業評価表に記入し発表する。 次時の予告を聞く。</li> <li>9. 後片付け</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の作業カゴの中に「アクリル織」の道具や材料を準備しておき、今日取り組む作業内容がわかるようにしておく。</li> <li>・ 必要な本数のプリンカップを準備しておく。(12個)</li> <li>・ 2色の毛糸を自分で一定の長さに切りそろえ、一本ずつプリンカップに入れて準備できるように補助具を用意しておく。</li> <li>・ 使う順番にプリンカップを並べ、作業量が分かるようにしておく。</li> <li>・ 糸を結びつけやすいように、糸先を4本合わせて一束にまとめるためのテープを用意しておく。</li> <li>・ すくう糸がわかりやすいように縦糸を紅白2色に色分けして張っておき、木枠の両端に紅白のテープを貼って確認できるようにしておく。</li> <li>・ 横糸の引っ張りすぎ防止のために両端の縦糸を固定する糸をつけておく。</li> <li>・ より美しく仕上がるよう声かけをして、集中力を喚起する。</li> <li>・ 本人が使いやすく切りやすいはさみを選ぶ。</li> <li>・ 今日の作業を振り返り自己評価を行い次の作業へ意欲が高まる用意をする。</li> </ul>

## (2)展開

	めざす姿	評価の観点
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・ミシンを使いより良い製品作りを目指し作業に取り組む。</li><li>・パソコンを使って自分でミシンの手順や使い方がわかる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ミシンを使い製品ごとにガイドで指定した正しい位置を縫うことができる。</li><li>・ミシンの使い方や手順がわからない時や不安な時に自分でパソコンを使い確認をすることができる。</li></ul>
	学習内容と活動	支援の工夫
	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 本時で作る製品を確認する。</li><li>2. ミシンの糸調子を確認する。</li><li>3. パソコンを使い、手順の確認をする。</li><li>4. ミシンをかける。 (わからなくなったらパソコンで手順の再確認をする。)</li><li>5. 糸の始末をする。</li><li>6. チェックを受ける。</li><li>7. 終わりの会をする。 作業学習評価表に記入し発表する。 次時の予告を聞く。</li><li>8. 後片付け</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ミシンをかけて製品づくりをすることがわかるように材料を準備しておき、本時に取り組む内容と作業量がわかり、目標を持ちやすいようにしておく。</li><li>・糸調子を確認する布を準備しておく。</li><li>・ミシンの上糸の通し方、下糸の換え方、製品ごとのミシンがけの手順など必要に応じて自分で確認できるコーナーを設け、パソコンを操作して動画でわかりやすく確認できるようにしておく。</li><li>・ランチョンマット、コースターと製品によって縫い幅が変わるので、縫う位置がわかりやすいガイドを準備しておく。</li><li>・ハサミと糸くず入れを準備しておく。</li><li>・一枚仕上がるたびにチェックをして、より良い製品づくりを意識できるように声かけし、達成感を感じながら作業できるようにする。</li><li>・今日の作業を振り返り、自己評価を行い、次の作業への意欲が高まるようにする。</li></ul>

## (2)展開

	めざす姿	評価の観点
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業報告ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイマーを使ってごとに糸の巻き終わり，織り目チェックの報告をし点検を受けることができる。(糸巻き10秒間，織り一定の時間10分間)</li> </ul>
	学習内容と活動	支援の工夫
	<ol style="list-style-type: none"> <li>本時の作業内容を確認する</li> <li>糸を選ぶ。</li> <li>ボビンに糸を巻く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>糸を固定版に固定する。</li> <li>巻きはじめをテープでボビンに止めて巻きやすいようにする。</li> <li>タイマーを使い巻きの量を調節する。</li> </ul> </li> <li>よこ糸を織り込んでいく。</li> <li>織り進みシャトルが通りにくくなったら，ローラーを巻く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ローラーを巻いた後，必ず箆が織り終わりの部分に届いているか確認する。</li> </ul> </li> <li>タイマーを使って一定の時間が終わったら報告する。</li> <li>終わりの会をする。 作業学習評価表に記入し発表する。 次時の予告を聞く。</li> <li>後片付け</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の「さをり織用の作業カゴ」必要な道具を用意しておく。(シャトル・ボビン5本・板杼・ハサミ・セロテープ・布物差し・タイマー)</li> <li>ボビンの数だけ色を選べるように3～5本のボビンを用意しておく。色や変り糸をまんべんなく選べるようにカゴに準備しておく。</li> <li>糸固定板を用意しておく。</li> <li>10秒間でタイマーを鳴らし，巻くのを止める合図にする。</li> <li>均等に巻けるように，ボビンの端から端まで糸を往復するように促す。</li> <li>色に変化がつくように1つのボビンの糸がなくなるまで織っていき，用意したすべてのボビンの糸を使うよう促す。</li> <li>10分間でタイマーを鳴らし，報告する合図にする。</li> <li>織り始め，織り終わりの糸の始末を端に糸が出ないように声かけをする。</li> <li>耳がそろうように糸の引き加減を一定にするように促す。</li> <li>今日の作業を振り返り，自己評価を行い次の作業への意欲を高める。</li> </ul>